

県産絹使い時計バンド

前橋国際大学生が考案

門倉メリヤス支援で商品化

門倉メリヤス(前橋市日吉町、門倉重行社長)はこのほど、共愛学園前橋国際大学(前橋市小屋原町、栗原昭正学長)の学生グループが考案した「シルクウオッチバンド」を隣接する直営店「ヴィオレッタ」で発売した。同商品は共愛学園前橋国際大学の仮想企業「繭美蚕(まゆみさん)」の意見を基に共同で商品開発、県が育成したオリジナル蚕品種「蚕太」を用いて完成させたもの。県庁県民ホールで開催中(5日～10日まで)の第

7回群馬の絹展でも展示しているほか30日に開かれる前橋中心商店街ツナガリズム祭りでも販売する。同校では4年前から学生にインターネット上に仮想の会社を設立し、実際に企業の支援を得ながら、商品開発に取り組み産学連携の授業を行っている。「繭美蚕」は05年6月に設立され、門倉メリヤスが支援企業となり、同校の兼本雅章准教授のゼミ生が代々引き継いで活動を行ってきた。「繭美

蚕」は、仮想企業の全国大会(トレードフェア)3年連続1位の成績を挙げている。これまで、「レックウオッチ」や「アームカバー」を商品化しているが、完全な学生オリジナル商品は今回が初。

メンバーは岡崎桂子社長(3代目)をリーダーとする3年生4人。「シルクウオッチバンド」(1200円)は男性用と女性用があり、黒赤、紫、生成りの4色。時計に簡単に装着でき、生地が汗を吸い取り、長時間装着したままでもべたべた感がなく消臭効果もある。ゴム地のため伸縮し、洗濯も可能。

岡崎さんは「父が腕時計の摩擦で腕が腫れたのをみてこういう商品ができればと思った。昨年11月のトレードフェアで先行販売した際、好評で作って良かったと実感した」と話している。

(東直樹)



シルクウオッチバンドをする岡崎さん